

# 供給計画の概要

～ 2012年度～

2012年3月  
東京ガス株式会社

# 目 次

はじめに.....	1
1. 普及計画.....	1
2. ガス販売量計画.....	1
3. 生産・購入量、原料使用計画.....	2
4. 主要設備計画.....	3
5. 設備投資計画.....	4

供給エリア概要図

## はじめに

平成23年3月の東日本大震災を契機にエネルギーのあり方が改めて問われており、現下の厳しいエネルギー情勢を踏まえれば、「エネルギーのセキュリティ強化」、「エネルギーコストの低減」、「エネルギーシステムの革新」といった課題に対し、スピード感を持って対処することが求められています。

こうした中、当社グループは、平成23年11月に「エネルギーと未来のために 東京ガスグループがめざすこと。～チャレンジ2020ビジョン～」を策定し、「LNGバリューチェーンの高度化」を進めております。

### <LNGバリューチェーンの高度化>

1. LNGバリューチェーンを通じて提供する付加価値の増大
2. LNGバリューチェーンを展開するエリアの拡大

これにより、天然ガスの普及・拡大を通じて、「豊かで潤いのある生活」、「競争力のある国内産業」、「環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献するとともに、グループの持続的成長を図ってまいります。

## 1. 普及計画

新設件数は、年間約19万件程度で推移するものと見込んでいます。

年度末のお客さま件数は、2016年度末に11,172千件を見込んでおり、5ヵ年平均で1.1%伸びる計画としています。

(単位:千件)

	11年度見通し*1	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
新設件数	183	186	192	194	195	194	1.2%
お客さま件数	10,564	10,680	10,801	10,924	11,048	11,172	1.1%

※お客さま件数＝ガスメーター取付数

## 2. ガス販売量計画

ガス販売量は、緩やかな景気回復を背景に、積極的な需要獲得によって工業用分野を中心に増加し、16年度には約160億 $m^3$ を見込んでいます。この結果、5ヵ年の平均伸び率は3.6%となります。

(単位:百万 $m^3$ ,45MJ/ $m^3$ )

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
全社ガス販売量計	13,412	13,871	14,310	14,887	15,608	16,020	3.6%

※11年度は標準化後(12年度以降の計画策定上の気温へ補正した値)見通し。以下の表も同様。

### (1) 家庭用

一件あたり販売量は、一世帯あたりの家族人員数の減少、気密・断熱性の高い集合物件比率の上昇、高効率機器の普及などにより減少傾向にあります。首都圏への人口流入超過の傾向は緩やかに今後も継続することに加え、新規需要の獲得強化やエネファームをはじめとする最新の機器・システムの普及・拡大に努めることにより、16年度の家庭用販売量は34億 $m^3$ を見込んでいます。

### 【家庭用ガス販売量】

(単位:百万 $m^3 \cdot m^3$ /件・年,45MJ/ $m^3$ )

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
家庭用ガス販売量	3,323	3,358	3,362	3,366	3,372	3,380	0.3%
一件あたり販売量	376	376	373	370	367	365	▲0.6%

(2) 商業用他

コージェネレーションシステムの普及・拡大、空調用需要の獲得等により販売量が増加し、16年度の商業用他販売量は29億 m<sup>3</sup>を見込んでいます。

【商業用他ガス販売量】 (単位:百万m<sup>3</sup>,45MJ/m<sup>3</sup>)

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
商業用他ガス販売量	2,586	2,620	2,659	2,683	2,788	2,896	2.3%
(内、大口ガス販売量)	(1,291)	(1,331)	(1,354)	(1,373)	(1,440)	(1,509)	(3.2%)

(3) 工業用

用途別で最大量を占める工業用については、広域エリアへの展開や他燃料からの切替、発電需要の獲得、コージェネレーションシステムの普及・拡大などの大口需要開発により販売量が増加し、16年度は75億 m<sup>3</sup>を見込んでいます。

【工業用ガス販売量】 (単位:百万m<sup>3</sup>,45MJ/m<sup>3</sup>)

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
工業用ガス販売量	5,326	5,684	6,025	6,629	7,235	7,504	7.1%
(内、大口ガス販売量)	(5,216)	(5,568)	(5,908)	(6,510)	(7,114)	(7,380)	(7.2%)

(4) 他ガス事業者向け供給

卸先事業者の工業用需要等の動向を踏まえ、16年度の他ガス事業者向けの販売量は22億 m<sup>3</sup>を見込んでいます。

【他ガス事業者向け販売量】 (単位:百万m<sup>3</sup>,45MJ/m<sup>3</sup>)

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	年平均伸び率
他ガス事業者向け販売量	2,178	2,209	2,264	2,209	2,213	2,240	0.6%

3. 生産・購入量、原料使用計画

長期契約をベースとした安定的な原料調達、及び非在来型 LNG の受入開始をはじめとした、より競争力のある原料調達に努めるとともに、上流事業への進出、需要動向に応じた短期取引の活用などにより調達の柔軟性を高めていきます。

【ガス生産・購入量】 (単位:百万m<sup>3</sup>, 45MJ/m<sup>3</sup>)

		11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
天然ガス系	LNG	12,889	13,276	13,590	14,107	14,415	14,767
	国産天然ガス	219	229	229	244	246	250
石油系	LPG	379	402	532	580	997	1,056
	オフガス	103	110	110	110	110	110
その他	バイオガス	1	1	1	1	1	1
合計		13,590	14,019	14,461	15,042	15,768	16,184

【原燃料使用量】 (単位:千t)

	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
LNG	10,223	10,444	10,681	11,079	10,789	11,060
LPG	301	343	453	494	849	900

#### 4. 主要設備計画

震災以降の環境変化を踏まえ、耐震・水害対策や経年管取替の加速等によりさらなる防災・保安向上を図ります。また、天然ガスに対する社会やお客さまからの期待・ニーズの高まりを踏まえ、需要見通しに的確に対応するとともに、さらなる安定供給基盤の強化に向け、製造・供給インフラを整備・増強していきます。

- ・日立 LNG 基地、および既存ネットワークと接続する茨城～栃木幹線を完成させるとともに、古河～真岡幹線を新規に計画します。
- ・新根岸幹線(横浜市)、横浜幹線Ⅱ期(横浜市～川崎市)、埼東幹線(草加市～古河市)を完成させます。
- ・湾内 3 工場に気化器を増設するとともに、扇島工場 4 号 LNG タンクを完成させます。

##### 【主要導管計画】

使用開始予定	名称	区間	内径(mm)	総延長(km)
2012年6月	鹿島臨海ライン	茨城県神栖市	600	4.5
2012年6月	南袖ライン	千葉県袖ヶ浦市	300	2.6
2013年3月	総和中圧導管延伸	茨城県古河市	300	8.7
2013年10月	新根岸幹線	横浜市磯子区～泉区	600	14.0
2013年10月	横浜幹線Ⅱ期	横浜市青葉区～川崎市麻生区	750	6.3
2015年10月	埼東幹線	草加市～古河市	600	39.9
2016年3月	茨城～栃木幹線	日立市～真岡市	600	81.3
2016年3月	栃木ライン延伸	栃木県真岡市	400	2.7
2017年度	古河～真岡幹線	古河市～真岡市	600	

##### 【年度末導管総延長】

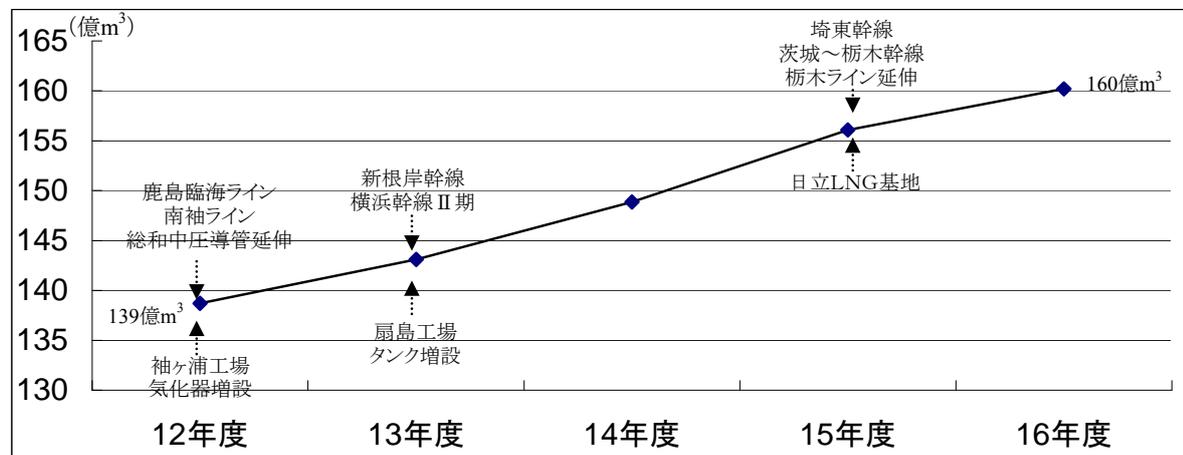
(単位:km)

11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
54,636	55,284	55,932	56,587	57,366	58,021

##### 【主要製造設備計画】

使用開始予定	設置場所	製造設備	基数
2012年12月	袖ヶ浦工場	LNG気化器	2
2013年10月	扇島工場	LNGタンク	1
2016年3月	日立LNG基地	LNGタンク	1
2016年3月	日立LNG基地	LPGタンク	1
2016年3月	日立LNG基地	LNG・LPG気化器	3
2016年3月	日立LNG基地	LPG気化器	2

##### 【ガス販売量計画と設備形成計画】



## 5. 設備投資計画

今供給計画策定期間の12～16年度において、

- (1) 製造設備では、湾内3工場でLNG関連設備の拡充ならびに扇島工場における4号LNGタンクの建設を行うとともに、耐震・水害対策や経年設備の改修・更新を計画的に行っていくことで、安定製造体制に万全を期す。
- (2) 供給設備では、新規需要開発のための導管投資、主要導管網形成(5 ページ「供給エリア概要図」参照)のための投資の他、地震・水害対策投資や、経年管取替の一層の促進などにより、安定供給体制の確立ならびに保安の確保に努める。
- (3) 業務設備では、情報システムの整備、業務用建物の耐震性向上、技術開発の推進などを実施し、業務推進体制の一層の強化を図る。
- (4) 附帯事業設備では、主に既存設備の改修に努める。

ことを柱として、5年間総額で7,095億円(工事負担金圧縮後)の投資を計画しました。

### 【設備投資計画】

(単位:億円)

項目	11年度見通し	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	12-16年度合計
LNG関連設備	158	195	222	302	188	7	914
その他	33	91	54	37	39	65	286
製造設備計	192	286	275	339	227	72	1,200
幹線投資	96	189	252	229	206	124	1,001
その他	666	674	651	653	651	656	3,285
供給設備計	762	864	902	882	857	780	4,286
業務設備	213	232	211	331	442	368	1,584
ガス事業設備計 (工事負担金圧縮後)	1,166	1,382	1,389	1,553	1,525	1,221	7,069
附帯事業設備	7	8	5	5	5	4	26
合計 (工事負担金圧縮後)	1,173	1,390	1,393	1,558	1,530	1,225	7,095

# 供給エリア概要図



<当社高圧幹線(計画中)>		
No.	路線名	使用開始予定年月
①	鹿島臨海ライン	2012年06月
②	南袖ライン	2012年06月
③	新根岸幹線	2013年10月
④	横浜幹線Ⅱ期	2013年10月
⑤	埼東幹線	2015年10月
⑥	茨城～栃木幹線	2016年03月
⑦	栃木ライン延伸	2016年03月
⑧	古河～真岡幹線	2017年度
<当社中圧ライン(計画中)>		
No.	路線名	使用開始予定年月
①	総和中圧導管延伸	2013年03月

**【凡例】**

- 当社グループの供給エリア
- 当社高圧幹線(既設)
- 当社高圧幹線(計画中)
- 当社中圧ライン(計画中)
- 他社パイプライン(既設)